

図書館ゼミ開催

# 写真で伝える世界の鼓動

講師 フォトジャーナリスト

## 安田菜津紀先生



速報新聞

# キマグレ

発行所  
彦根東高等学校

## 新聞部

▲いまだに多数の地雷が残されているカンボジアの現状を解説される安田さん

3月23日に本校図書館にて、フォトジャーナリストの安田菜津紀さんを講師とし「写真で伝える世界の鼓動」と題して図書館ゼミが行われた。

安田さんは初めにご自身の仕事の原点であるカンボジアについて話された。安田さんは高校生のときにカンボジアに派遣され、現地の人を取材された。その中で「学校に行きながら仕事ができる」と騙され、拉致された人を取材された。そのときのことを「最も衝撃を受けたのは、彼らが真っ先に心配するのが自分のことではなく、家族のことだったことだ。そのとき自分しか守る物がなかったことに気づき、自分から誰かを守れる人になりたいと思った」と話された。

安田さんが次に話されたのは東北のことだった。安田さんは校舎が全壊したため、別の小学校で入学式をせざるを得なかった2人の生徒を記録されている。安田さんはこの取材を「それぞれができることはとても小さいが、持ち寄りれば乗り越えられるのだと思っ」と振り返られた。

最後に話されたのは中東だ。シリアでは内戦によって総人

▲ゼミの後にはたくさんの質問が寄せられた。



口の半数以上が難民となっている。安田さんは中東の取材について「人が死ぬといつも自分の仕事を疑う。医者になつていけば救えた人がいるかもしれない。伝えるためと言って現場を離れてしまっていることに何の価値があるのだろうか」と胸中を打ち明けられた。しかし「現地のNGOの方に『これは役割分担だ』と言ってもらったことに救われた。一人が全部できるわけではないのだとわかった」と振り返られた。

安田さんは最後に「必ず選んだ職業には持ち寄り合える役割がある。皆さんも持ち寄りあうことができればうれしい」と締めくくられた。